

D-5

中国語の形容詞における原級と比較級の統語的区別

関西大学 郭楊

要旨

本発表では、朱(1980)をはじめ、多くの先行研究で基本とされている「性質形容詞」対「状態形容詞」の位置付けの問題点を指摘したのち、「比較級」対「原級」の代案を提案する。さらに、以下5つの根拠に基づき、単体の“聪明”は比較級であり、“很聪明”は比較級になれず、原級であることを論じる。①比較構文でなくても、単体の“聪明”のみで比較の意味を出せること；②単体の“聪明”と“很聪明”の意味の差は程度の有無にあるわけではないこと；③単体の“聪明”は“比”以外の比較構文でも可能だが、“很聪明”はそれができないこと；④単体の“聪明”は状態変化助詞の“了”と共起できるが、“很聪明”はできないこと；⑤“聪明”と“很聪明”と共起する程度副詞のタイプが異なることである。

1. はじめに

中国語の形容詞の種類が問われる際に、朱(1980)¹による2種類が定説になっている。本発表では主要例として用いられている“聪明”と“很聪明”は、それぞれ朱(1980)においては、種類の異なる形容詞になっている。発表者も、“聪明”と“很聪明”は統語的に異質なものであると考えるが、この2種類の形容詞の位置づけについては、朱(1980)と異なる。以下では、朱(1980)の分析及びその問題点を指摘したうえ、“聪明”と“很聪明”の位置付けを捉え直す根拠となる構文を5つ取り上げて論述する。

2. 朱(1980)の分析及びその問題点

朱(1980)²は、中国語の形容詞を大きく(1)の2種類に分けている。

- (1) a. “性质形容词” (「性質形容詞」) (“简单形式/ 甲式”とも呼ばれる) : “大, 红, 多, 快, 好”などの単音節の形容詞と、“干净, 大方, 糊涂, 规矩, 伟大”などの修飾関係にならない二音節の形容詞である。
- b. “状态形容词” (「状態形容詞」) (“复杂形式/ 乙式”とも呼ばれる) : ①“小小儿” (「小さい」)、“老老实实” (「堅實的」)の“重叠式” (「重複式」) ; ②“黑乎乎” (「真っ暗」)のような“带后加成分的形容词” (「後続成分の付いている形容詞」) ; ③“鲜红” (「真っ赤な」)のような“重叠式”がxxyyではなく、xyxyになる形容詞 ; ④“很大”、“又高又大” (「高いし、大きい」)のような形容詞が主要部になるような形容詞句である。

(朱德熙 1980: 3~5)

(1)の結論を導いた朱(1980)の観察は、以下の(2)~(4)である。

(2) 連体修飾語 (“定语”) の場合

- a. [性質形容詞 白] 纸 (白紙)
- b. [状態形容詞 雪白] 的纸 (真っ白な紙)
- c. *[状態形容詞 雪白] 纸

(朱德熙 1980: 7)

¹ 朱(1980)は、朱(1956)およびほか朱德熙の論文7本をあつめたものである。朱(1980)は朱(1956)を転載する際に、書式などの部分的な修正を行ったため、本発表は校正後の朱(1980)を引用の元とする。

² 本発表において引用した朱(1980)は、原文は中国語であるため、発表者が日本語に訳した。

- (3) 連用修飾語（“状語”）の場合
 a. *_[性質形容詞 好] 的³ 说
 b. _[状態形容詞 好好] 的 说 （きちんと言う） （朱徳熙 1980: 25）

- (4) 補語（“補語”）の場合
 a. 写得_[性質形容詞 好]。 （（今回は）よく書けている。）
 b. 写得_[状態形容詞 很好]。 （よく書けている。） （朱徳熙 1980: 33）

(2)と(3)においては、形容詞がシンプルな形をしているほう（(2a)、(3a)）と、複雑なほう（(2b, c)、(3b)）とでは、相補分布をしている。(4)においては、形容詞のシンプル形“好”と複雑形“很好”のどちらも用いることができるが、朱（1980）は、(4a)の“好”はいイベント“写”（「書く」）を「限定」しているのに対し、(4b)の“很好”は「描写」していると述べている。(2)～(4)の観察に現れている2種類の形容詞の違いについては、朱（1980）は(5)を用いて位置づけている。

- (5) 「性質形容詞」 ((1a)) は事物の恒久的、静止的な属性を表すのに対し、「状態形容詞」 ((1b)) は事物の暫定的、変化的意味を表している。 （朱 1980: 26）

本発表は、(5)に示している朱（1980）の形容詞における位置づけには同意できない。以下では、その問題点を2つ指摘する。

一番目に、形容詞のシンプル形、たとえば、“高”とそれに対応する程度副詞（“很”）のついた形容詞句“很高”を別種類に分けるという朱（1980）の提案が妥当であっても、(6)に示す場合は(5)では説明できない。

- (6) 前提：張三、李四という二人の成人男性がおり、張三の身長は160センチであり、李四は155センチであるとしよう。

A: Zhangsan he Lisi shei gao?
 张三 和 李四 谁 _[性質形容詞 高]?
 张三 と 李四 誰 高い

（張三と李四では、どちらのほうがより身長が高いですか？）

B: Zhangsan gao.
 张三 _[性質形容詞 高].
 张三 高い

（張三のほうがより身長が高い。）

(6A)の質問及び(6B)の回答に生起しているのは、どちらも朱（1980）において「恒久的、静止的な属性」を表す「性質形容詞」“高”である。しかし、張三一人だけ見たときに、決して“高”とは言えないにもかかわらず、属性を表す「性質形容詞」“高”を用いられている(6B)は朱（1980）にとって問題になる。

二番目に、朱（1980）では、助詞“了”に後続されていれば、「性質形容詞」であっても、「恒久的、静止的な属性」ではなく「事物の変化」を表すことができると述べている。

- (7) 天_[性質形容詞 黑] 了。
 （空が暗くなった。） （朱徳熙 1980: 27 脚注①）

(7)の述語“黑”（「暗い」）も朱（1980）では「性質形容詞」と分類されているが、(7)では、“黑”は空の「恒久的属性」を表しているわけではなく、「一時的な変化」を表している。そこについて

³ この“的”は原文ママ

は、朱(1980)は、(7)にあるような、「性質形容詞」なのに属性ではなく変化を表すという矛盾を、後続している“了”が変化を表す助詞だからと説明している。しかしいくら“了”が変化を表せたとしても、“*雨了, *桌子了” (“*雨 le, *机 le”)は容認不可能であるように、“了”に後続される語彙に変化の可能性を含めていなければ、説明が付かない。

以上のことから、朱(1980)が中国語の形容詞を2種類に分け、“高”と“很高”がそれぞれに分類すること自体は一理あるが、しかし、朱(1980)の位置付けでは、(6)や(7)の現象を捉えることができない。したがって、本発表は、“高”と“很高”や“聪明”と“很聪明”を、「性質形容詞」対「状態形容詞」ではなく、新たな位置づけによって考えるべきだと思う。

3. 主張と根拠

本発表では、“高”、“好”、“黒”、“聪明” (“賢い”) など、形容詞のシンプル形とそれらに程度副詞“很”の伴った形容詞句の形を別々の種類に分ける点については朱(1980)と同様であるが、この2種類の分類について、朱(1980)の「性質形容詞」対「状態形容詞」ではなく、形容詞の「比較級」対「原級」によって捉えなおしたい⁴。以下では、“聪明”と“很聪明”をこの対立の代表とし、その違いを(8)のように考える。

- (8) a. “聪明”は、比較級である。
b. “很聪明”は、比較級になれず、原級である。

ここから順番に、(8)の捉えかたを支持する根拠を5つ挙げていく。

4. 根拠

4.1. 比較構文でなくても、“聪明”は「より賢い」の意味になる。

(9A)は「張三は頭がいいですか」という事物の「恒久的、静止的属性」を聞く質問であるから、朱(1980)を当てはめると「性質形容詞」に分類されている“聪明”が用いられるはずである。ところが、そのように“聪明”を用いた(9B2)は不適切となる。一方で、朱(1980)では「状態形容詞」とされ、「恒久的、静止的属性」を問う(9A)への回答としては不適切なはずの“很聪明”を用いた(9B1)は適切な答えとなっている。

- (9) A: Zhangsan naozi zenmeyang?
张三 脑子 怎么样?
張三 頭 どう

(張三は頭がどうですか。=張三は頭がいいですか?)

- B1: Zhangsan hen congming .
张三 [原級] 很 聪明。
張三 とても 賢い

(張三は賢い。)

- B2: #Zhangsan congming .
#张三 [比較級] 聪明。

⁴ 伊藤(2005)は、「英語の絶対級構文には、程度副詞を伴う形容詞句が対応し、比較級構文には裸の形容詞が対応している」と述べ、意味的に主語の表す個体の持つ性質を述べている文を「絶対級構文」と呼び、主語の表す個体の持つ性質の程度を他の個体のもつ程度と比較している文を「比較級構文」と呼んでいる。さらに、伊藤(2005)は、「絶対級構文」と「比較級構文」の2つ異なる構文があると仮定したうえ、それぞれが生起する構文の構造を詳しく述べている。しかし、本発表は、構文に基づく仮定ではなく、形容詞という語彙範疇そのものを分類しているため、伊藤(2005)と異なっていると考える。

張三 賢い
 (張三のほうがより賢い。)

(9)は(6)、(7)と同じように、朱(1980)の「性質対状態」では説明できない。しかし、“聰明”は「性質形容詞」ではなく、形容詞の「比較級」である、と同時に、“很聰明”も「状態形容詞」ではなく、形容詞の「原級」であると考えれば説明がつく。このように位置づけると、さらに、(10)の“比”を用いていない構文における“聰明”が比較の意味となる現象までも説明できる。

(10) A: Zhangsan he Lisi shei congming.
 张三 和 李四 谁 [比較級 聰明] ?
 張三 と 李四 誰 賢い

(張三と李四では、どちらのほうがより賢いですか?)

B1: #Zhangsan hen congming.
 #张三 [原級 很 聰明].
 張三 とても 賢い

(張三は賢い。)

B2: Zhangsan congming.
 张三 [比較級 聰明].
 張三 賢い

(張三のほうがより賢い。)

(10)では、形容詞のほかに、比較を表す語彙項目や構文は一切ないが、(10A)と(10B2)の“聰明”はどちらも「より賢い」と解釈され、適切な質問—返答ペアになる。一方、“很聰明”のある(10B1)は(10A)の適切な答えにはなれない。これは、張(2000,2006)、沈(1980)などの先行研究で言われている形容詞文の比較の意味が生じるのは比較構文の構文的力によるものだという論点に反している。つまり、(10A)、(10B2)において、一見原級に見える“聰明”は、実は形容詞の比較級(「より賢い」)であり、“很聰明”は原級であると考えれば、(9)と(10)は同時に説明できる。

4.2. “聰明”は「より賢い」になるが、“很聰明”は「さらに賢い」になれない。

“聰明”が形容詞の比較級であればこそ、“比”を用いた比較構文に生起できるのは当然である。

(11) Zhangsan bi Lisi congming.
 张三 比 李四 [比較級 聰明]。 <比較構文>
 張三 ~より 李四 賢い

(張三は李四より賢い。)

ところが、(11)の“聰明”を“很聰明”に置き換えた場合の意味は「李四も賢いが、張三のほうがさらに賢い」にならない。それどころか、そもそも“很聰明”と“比”は共起できない。

(12) *Zhangsan bi Lisi hen congming.
 *张三 比 李四 [原級 很 聰明].
 張三 ~より 李四 とても 賢い

つまり、“聰明”は「(李四)よりも賢い」という比較の意味になるが、“很聰明”でそのさらに上(「よりもさらに賢い」という意味を表せない。この点についても、“聰明”は比較級であり、“很聰明”は原級であると考えなければならない。

ところで、中国語では、「李四も賢いが、張三のほうがさらに賢い」と言いたい場合には、(13)のようになる。

(13) Zhangsan bi Lisi geng congming.

张三 比 李四 更 [比較級 聰明]。
張三 ~より 李四 さらに 賢い

(李四も賢いが、張三のほうがさらに賢い。)

紙幅の関係上、ここでは副詞“更”の語彙特性については詳しく考察することができないが、“更”は“很”と違って、“比”と共起できるため、この2つはタイプの異なる「程度副詞」であると示唆されている。

4.3. “聰明”は、“比”以外の比較構文も可能だが、“很聰明”は不可能である。

“聰明”は、“比”のような明示的な比較要素がなくても、「記述対象」、「基準」、「差の程度」という3つの項のある比較構文であれば、生起できる。この場合でも、やはり“很聰明”では容認不可能である。

(14) a. Zhangsan congming (le) Lisi yidajie
[記述対象 张三] [比較級 聰明] (了) [基準 李四] [差の程度 一大截]。
張三 賢い (le) 李四 大きい一切れ

(張三は李四よりずっと賢い。)

b. *Zhangsan hen congming le Lisi yidajie
*[記述対象 张三] 很 [原級 聰明] (了) [基準 李四] [差の程度 一大截]。
張三 とても 賢い (le) 李四 大きい一切れ

(14a)において、唯一の述語は“聰明”である。よって、このとき、「記述対象」、「基準」と「差の程度」の3項を取っているのは“聰明”であると考えられるしかない。これができるのは、“聰明”が比較を表す比較級でほかならないからである。一方、“很聰明”を用いた(14b)は容認不可能である。(14b)は、「張三は李四よりだいぶとても高い」という意味にならない。そのため、“很聰明”は比較級ではなく、原級であると考えべきである。

比較級のこの三項動詞的な用法を示す例をもう1つ挙げる。

(15) a. Zhangsan gao (le) Lisi yitou
[記述対象 张三] [比較級 高] (了) [基準 李四] [差の程度 一头]。
張三 高い (le) 李四 頭1つ分

(張三は李四より頭1つ分背が高い。)

b. *Zhangsan hen gao (le) Lisi yitou
*[記述対象 张三] 很 [原級 高] (了) [基準 李四] [差の程度 一头]。
張三 とても 高い (le) 李四 頭1つ分

(15)においても、やはり「記述対象」の“张三”、「基準」の“李四”と「程度の差」“一头”の3項を同時にとれるのは“聰明”と同じく比較級である“高”であって、“很聰明”と同じ原級である“很高”ではない。

4.4. 状態変化を表す助詞「了」が共起できるのは、比較級たる“聰明”の場合に限られる。

第四の根拠を提示する前に、朱(1980)の(7)や下記例(16)に現れている文末助詞“了”の統語的機能について指摘したいと思う。

(16) Zhangsan congming le
张三 [比較級 聰明] 了。
張三 賢い le

(張三はより賢くなった。)

(cf. *張三は賢かった。)

この場合の“了”は過去の状態を表す助詞ではなく、状態変化を表す助詞である。中国語では、形容詞の過去を表すには、通常(17)のように、過去を表す時間副詞を使う。(16)の意味は「張三はより賢くなった。」であって、「張三は賢かった。」ではない。

- (17) Zhangsan yiqian hen congming.
 张三 [時間副詞] 以前 很 [原級] 聰明。
 張三 以前 とても 賢い

(張三は以前は賢かった。)

この前提を踏まえ、第四の根拠として、比較級“聰明”は状態変化を表す助詞“了”と共起できるが、原級の“很聰明”はそれと共起できないことを挙げる。

- (18) a. Zhangsan congming le.
 张三 [比較級] 聰明 了.
 張三 賢い le
- (張三はより賢くなった。)
- b. *Zhangsan hen congming le.
 *张三 [原級] 很 聰明 了.
 張三 とても 賢い le

(18b)が容認不可能なのは、“很”は原級の形容詞としか共起せず、かつ原級の形容詞はこの種の状態変化を表す“了”と共起しないからである。そもそも、状態の変化を語るということは、基準(変化前の状態)と比較する必要がある。つまり、この場合の「変化前の状態」は、前節の「基準」の項と比べ、ただ音形に現れていないだけであると考えることができる。よって、“聰明”の三項動詞的用法のときと同じように、(18a)は、「張三は以前に比べ、より賢くなった」を意味する容認可能な文である。このような文に比較級の形容詞しか使えないのは当然のことである。

4.5. “聰明”と共起できる副詞のタイプは“很聰明”と共起できる副詞のタイプとは異なる。

第五に、共起できる副詞のタイプが異なることが、比較級と原級として統語的区別があることを示す。

- (19) a. Zhangsan bi Lisi gao yidianer
 张三 比 李四 高 一点儿. <比較構文>
 張三 ~より 李四 高い 少し

(張三は李四より少し身長が高い。)

- b. *Zhangsan bi Lisi youdianer gao.
 *张三 比 李四 有点兒 高。 <比較構文>
 張三 ~より 李四 少し 高い

- c. Zhangsan youdianer gao.
 张三 有点兒 高。 <非比較構文>
 張三 少し 高い

(張三はちょっと身長が高い。)

(19a)の“一点儿”も(19b)の“有点兒”も「少し」という意味である。“一点儿”は比較級と共起し、比較対象と基準との差が少ないことを表す副詞である。対して、“有点兒”は原級と共起し、その特性の程度が少ないことを表す副詞である。この2つの違いは、“比”を含まない構文では、より明瞭となる。

- (20) a. Pianyi yidianer.

[比較級 便宜] 一点儿。
安い 少し

(もう少し安くして。)

b. Youdianer gui.
有点儿 [原級 貴]。
少し 高い

(少し高いね。)

王(1999)は、(20a)が形容詞文なのに命令文になることを指摘はしているものの、その理由については明確に述べていない。しかし、本発表の主張を用いれば説明できる。命令文(22a)が「今の値段よりももう少し安くしてよ」という意味になるのは、この形容詞“便宜”が“聪明”と同じように、まさに比較級だからである。

5. まとめ

本発表では、朱(1980)では「性質形容詞」対「状態形容詞」と位置づけられている“聪明”と“很聪明”を、5つの根拠によって、「比較級」対「原級」に捉えなおした。本発表の捉え方は、朱(1980)にとって問題になる(6)、(7)をうまく説明できたのみでなく、朱(1980)に観察されている(2)~(4)についても分析できる。(2a)の“白纸”(「白紙」)における“白”は、比較級の「より白い」と解釈されないが、そもそも“白纸”は「形容詞+名詞」ではなく、一語ではないか。“高人”という言葉が中国語にあるが、「身長の高い人」ではなく、「頭脳の優れた人、コンサルタント」であることから、“高”と“人”ではなく、“高人”とワンワードで考える必要があるのと同じである。(3a)の「比較級+的+動詞」“*好的⁵说”が容認不可能で、(3b)の“好好的说”が容認可能であることは、形容詞の位置付けではなく、音韻的な理由によって説明するべきだと考える。なぜなら、“更好的说明”(「よりよく説明する」)ならば、「比較級+的+動詞」でも容認可能だからである。(4a)の“写得好”は“这次的字写得^好”に生起でき、「今回の字は(普段)よりうまく書けている。」と解釈されるため、比較級であると言える。一方、(4b)の“写得很好”は“这次的字写得很好”に生起でき、「今回の字はうまく書けている」と解釈されるため、原級であると言える。

今後は、本発表で“聪明”と“很聪明”に代表されている比較級と原級には、ほかにどのような形容詞、形容詞句が入っているか、さらに、比較級と原級の意味的違いをどのように位置づけるのかについても考えたい。

参考文献

沈家煊(1980) 形容詞句法功能的标记模式, 《中国语文》第4期.

王志英(1999) 「中国語の「形容詞の命令文」と「一点儿」について」, 『中国語学』246, 79-88, 日本中国語学会.

张国宪(2000) 现代汉语形容词的典型特征, 《中国语文》第5期.

张国宪(2006) 性质形容词重论, 《世界汉语教学》第1期.

朱德熙(1956) 现代汉语形容词研究, 《语言研究》第1期.

朱德熙(1980) 现代汉语形容词研究, 《现代汉语语法研究》1, pp.3-41, 商务印书馆.

伊藤さとみ(2005) 「現代中国語における形容詞述語文」, 『日本東洋文化論集』11, 47-65, 琉球大学文学部紀要.

⁵ この連用修飾のマーカ―は、朱(1980)にならって、“的”を使う。